



理事会だより (11・9)

一、秋季俳句大会について①神靜民報、タウンニュースの大会掲載記事の紹介(事業部、総務部)②総括報告、当日参加が朝方の雨の影響で少なかったこと、会員の投句増加が望まれることなど意見交換(事業部)③会計報告(会計部)

二、秋の吟行会実施報告(会計部 本号4頁)

三、梅まつり俳句大会の投句は現在二十七名、役割分担は次月理事会にて。

四、第77回桜まつり俳句大会は六年四月七日(日)

U M E C O、兼題等募集要項詳細は次月理事会にて。

五、立春句会は六年二月四日(日) 詳細は本号10頁

六、令和6年度秋季俳句大会は六年十月六日(日)

U M E C O

理事会日程

12 / 14 1 / 11 2 / 8 3 / 14
(毎月第2木曜日 けやき15時より)

「俳句おだわら」10句抄 (675号より)

長谷川きよ志 抄出

青年の弾む言の葉星月夜

手と足が先に応へて盆踊り

新盆や祖母の筵にたむろして

迷走する台風ワサビ絞りきる

捨て屋敷昔をおもふ萩が咲く

野の空の灯纏ひぬ萩の花

一句二句できればよろし西鶴忌

花野行く花の詠嘆聞きながら

防災の倉庫でんけん震災忌

法師蟬や極楽にいくあてもなく

山田照子 抄出

手と足が先に応へて盆踊り

稲すずめ富士に連なる吊し雲

竹伐るや竹二三本騒がせて

四万十の川は蜻蛉の国となる

諍ひは苦し秋刀魚の腸旨し

いかづちに応へてゐたる尾獣骨

双眼鏡小さな秋を引き寄せる

駅ビルの通路は迷路いわし雲

指先へ集める血糖秋深し

ぐうの音も出ぬほど残暑続くなり

高橋 小糸

吉田 康雄

高杉掘三朗

竹下由里子

勝木 澄子

松下 俊之

二見 和江

青木 たけを

青木 勝子

穂坂志げる

吉田 康雄

星 一義

高橋久美子

瀧本 敦子

伊藤はる子

瀬戸 悠

市川めぐみ

加藤かほる

小林永以子

小澤 園子

高井幸子

(令和5年7月号)

辞書にない生き方もあり余り苗

石井千代子

田植えを経験するようになり、余り苗のことがいつも気になっていました。機械できちんと植えられた苗は、あるべき場所に立ち自信を持って気持ちよさそう。余り苗は、田の隅にとりあえずまとめ置きます。でも出番はあるのだろうか。そんな気持ちがこの俳句に出会えて嬉しくなりました。「辞書にない生き方もあり」がとても良かったです。

中根登美子

(令和5年 月号)

秋茄子や晩年という自由席

豊田 幸枝

若い頃は仕事や育児等に追われて、自分の自由な時間は限られていました。子育ても終り、ふと気が付けばもう晩年という今日この頃です。

果てし無く続く夢や希望にわくわくしている作者の心情が良く見えて来ます。晩年の自由席に込められた明かるい前向きな作者の気持を、秋茄子の艶と輝きで更に一句盛り上げています。

立春句会のお知らせ

日時 令和6年2月4日(日) 雨天決行
集合 小田原城天守閣 本丸広場 10時

短冊つるし後句会 ・短冊は12月理事会にて配布(立春・梅に因んだ句、1月の理事会までは当日に持参下さい)

句会場

そびそ二宮呉服店2階(元オービックビル銀座通り反対側角) 小田原市栄町2-13-1
(電話0465-221-8121)

*なるべく食事を済ませてご参集ください。マスク着用等。

会場利用時間 12時～15時(受付12時～)

会費 五百円(賞品代等)

投句 当日囁目3句を短冊にて(受付にて配布、締切12時30分)

句会 13時より総互選 披講は各自

*事前申込の必要はありません。お仲間(会員以外も可)をお誘い合わせの上現地にご集合下さい

俳句おだわら鑑賞